

学力向上に向けて

～令和5年度全国学力・学習状況調査より～

市川市教育委員会
学校教育指導課
令和6年2月21日

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への**教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。**

さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査の内容

①児童生徒に対する調査

ア 教科に関する調査

[小学校:国、算 中学校:国、数、英]
出題範囲は、調査する学年の前学年までに含まれる指導事項

イ 質問紙調査

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する質問紙調査

②学校に対する質問紙調査

学校における指導方法に関する取組や学校における人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する質問紙調査

3 調査を実施した学校・児童生徒数(調査日:令和5年4月18日)

	対象学校数	学校数(実施率)	児童生徒数
小学校	39校※1	39校(100%)	3,395人
中学校	16校※2	16校(100%)	2,818人

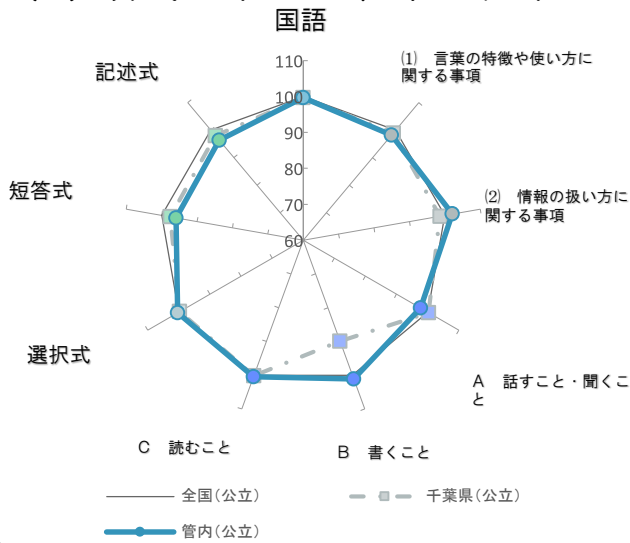
※塩浜学園(前期課程・後期課程)を含む

4 教科に関する調査[国語、算数・数学、英語]の結果について

小学校6年生 平均正答率(%)				中学校3年生 平均正答率(%)			
小学校	市川市	千葉県	全国	中学校	市川市	千葉県	全国
国語	67	67	67.2	国語	69	69	69.8
算数	65	62	62.5	数学	52	51	51.0
				英語	48	46	45.6

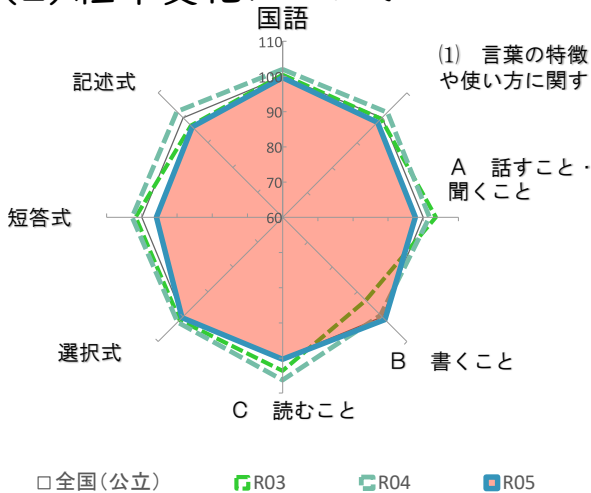
※平均正答率は、文部科学省の発表に基づき、全国は小数第1位まで、千葉県及び市川市は小数点以下を四捨五入した結果を示しています。

(1) 領域別平均正答率の結果について



- ・全体としては、全国平均と同等の結果となりました。
- ・「書くこと」「読むこと」や、「情報の特徴や使い方に関する事項」の領域では、全国平均と同等又は上回りました。
- ・「話すこと・聞くこと」や記述式の問題は、全国平均を若干下回り課題があります。

(2) 経年変化について



(3) 全国平均と比べ、同等又は良い状況と考えられること

- ・原因と結果など情報と情報との関係について理解すること。
- ・情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

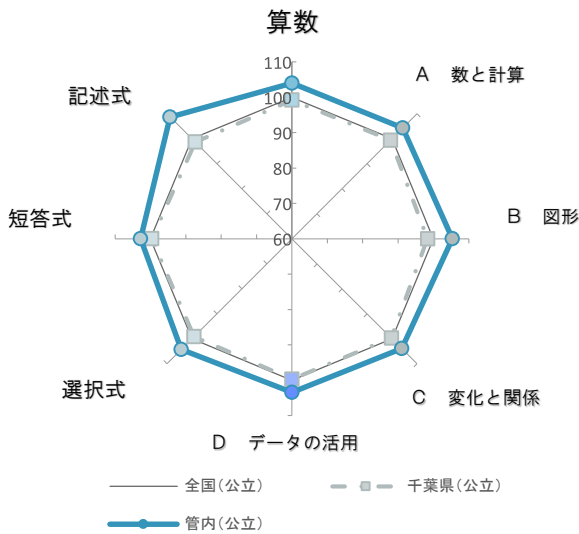
(4) 課題があると考えられること

目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめること。

【課題改善のポイント】

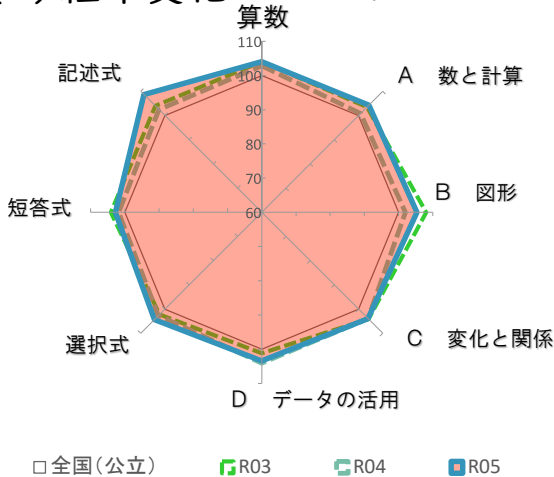
目的と相手を明確にすることで、児童に学習への意欲をもたせることや、言葉による見方・考え方を働かせることにつながります。そのため、学習計画やこの単元でつけたい力については、教室に掲示する等、教師と児童で共有することが大切です。また、話し手の考えを聞いて分かったことを整理したり、分かったことの中から既存の知識や体験などに結び付けて考えたりしながら、自分の考えをまとめるようにすることが大切です。

(1) 領域別平均正答率の結果について



- ・全体としては、全国平均を上回る結果となりました。
- ・「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」の4領域で、全国平均を上回りました。
- ・記述式、短答式、選択式の問題全てで、全国平均を上回りました。

(2) 経年変化について



(3) 全国平均と比べ、同等又は良い状況と考えられること

- ・伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いること。
- ・正方形や台形等、図形の意味や性質について理解していること。

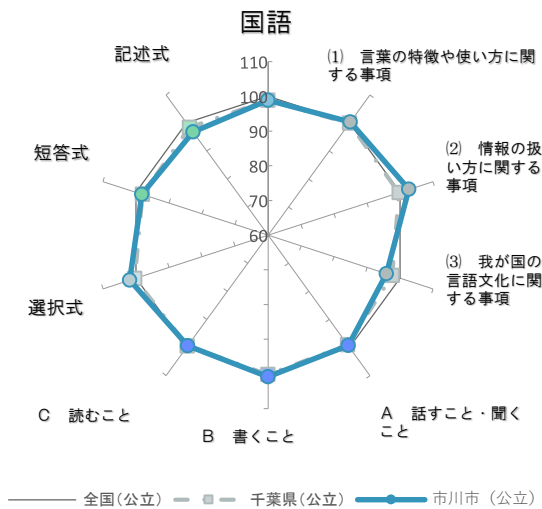
(4) 課題があると考えられること

示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述すること。

【課題改善のポイント】

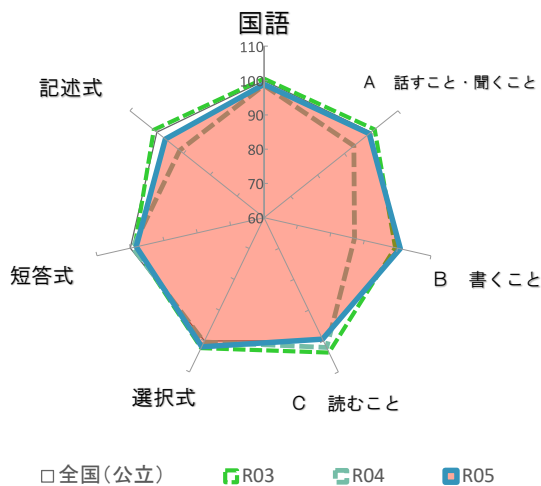
目的に応じて示された複数のグラフから、データの特徴を捉え考察したり、見いだしたことを表現したりすることができるようにするには、グラフ等資料を正しく読み取ることと、グラフ等資料を比べて見いだした違いを言葉や数を用いて表現することが、重要です。そのため、グラフから特徴や傾向を捉えたり、考察したりしたことをグラフのどの部分からそのように考えたのかを明らかにして、他者に分かりやすく説明する場面を、日々の生活や学習場面で設定することが、大切です。

(1) 領域別平均正答率の結果について



- ・全体としては、全国平均を若干下回る結果となりました。
- ・「書くこと」や、「情報の特徴や使い方に関する事項」の領域では、全国平均と同等又は上回りました。
- ・「話すこと・聞くこと」や「読むこと」、記述式の問題は、全国平均を若干下回り、課題があります。

(2) 経年変化について



(3) 全国平均と比べ、同等又は良い状況と考えられること

- ・事象や行為、心情を表す語句について理解していること。
- ・観点を明確にして文章を比較し、表現の効果について考えること。

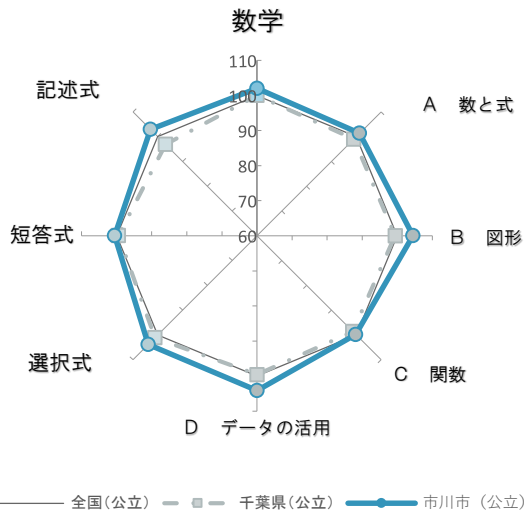
(4) 課題があると考えられること

聞き取ったことを基に、目的に沿って自分の考えをまとめること。

【課題改善のポイント】

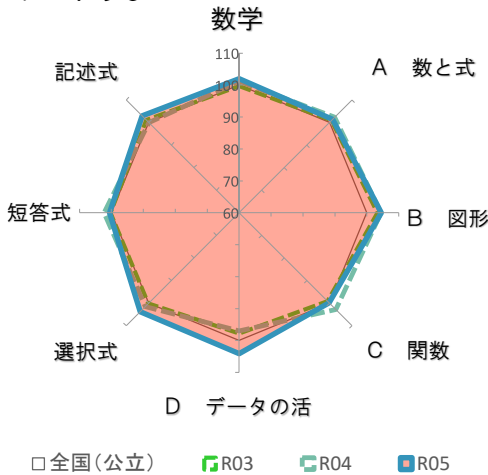
生徒自身に「漠然としたインタビュー」ではなく、「聞き手としての問いやねらいのあるインタビュー」をすることが重要であることを実感的に捉えさせることが重要です。具体的には、事前学習を通して得た情報等を基に「より詳しく知りたいこと」や「疑問に思うこと」を事前に考え、質問事項をメモにまとめることが大切です。また、普段からただ聞くのではなく、共通点や相違点などに着目して自分の考えをもつ学習活動を展開する必要があります。

(1) 領域別平均正答率の結果について



- ・全体としては、全国平均を上回る結果となりました。
- ・「数と式」「図形」「データの活用」の3領域で、全国平均を上回りました。記述式、短答式、選択式の問題全てで、全国平均を上回りました。
- ・「関数」の領域は、全国平均を若干下回り、課題があります。

(2) 経年変化について



(3) 全国平均と比べ、同等又は良い状況と考えられること

- ・問題場面における考察の対象を明確に捉えること。
- ・目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明すること。

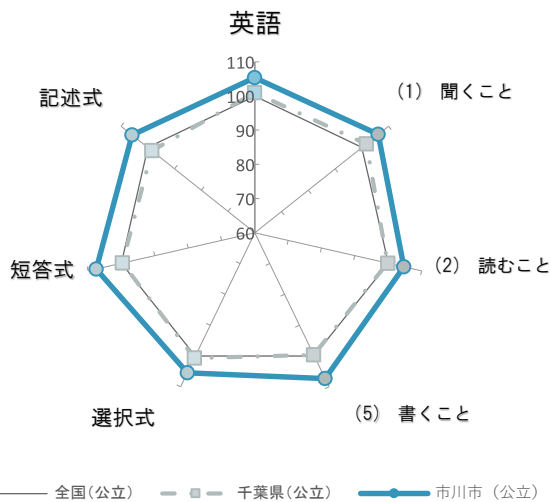
(4) 課題があると考えられること

事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること。

【課題改善のポイント】

数学的事象について、数学的に考察する場面でのアプローチの方法や手順を説明することが重要です。そのため、生徒自身が問題解決の構想や見通しを立て、生徒同士で問題解決の方法について説明したり、構想や見通しと問題解決の方法の説明について比較したりしながら、方法の説明について吟味していくことが大切です。自分の考えを説明する場面を設定し、どの方法でどのように求めたのか、数学的な表現を用いながら問題解決の方法を筋道立てて説明できるようにしていきます。

(1) 領域別平均正答率の結果について



- ・全体としては、全国平均を上回る結果となりました。
- ・「聞くこと」「読むこと」「書くこと」の3領域で、全国平均を上回りました。記述式、短答式、選択式の問題全てで、全国平均を上回りました。

(2) 全国平均と比べ、同等又は良い状況と考えられること

- ・「事実・情報を伝える」と「考えや意図を伝える」という言語の働きを理解し、事実と考えを区別して読むこと。
- ・日常的な話題について、目的に応じて英語を聞き、必要な情報を聞き取ること。

(3) 課題があると考えられること

日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くこと。

【課題改善のポイント】

日常的なテーマについて、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことに大きな課題がありました。文章が書けない理由として、「基本的な語や文法事項等の知識が身に付いていない」などの理由が考えられますが、「そもそも何を書いたらよいかかわからない」「文章が整理できない」という問題点が挙げられます。そこで、一文一文が正確に書けることに加えて、前後でつながりのある文章や、全体としてまとまりのある文章を書く力を高めていくことが大切です。

また、場面や状況に応じて表現を使い分けることができるように、言語の使用場面やコミュニケーションを行う相手との関係性を意識し、場面や状況に応じた適切な表現を選択する場面を設定することも大切です。効果的な言語活動として、教科書における登場人物の設定を変更し、適切な表現や言い方に直して音読する活動などがあります。

10 「児童生徒質問紙調査」と「教科に関する調査」との相関について

市川市では、次のような児童生徒ほど、教科の正答率が高い傾向がありました。

- ・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んだ授業が多い。
- ・各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行った授業が多い。
- ・学級の仲間との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを広げたり、深めたりすることができている。
- ・学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。

探究的に学んでいる児童生徒

- ・自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいる。
- ・読書が好き。
- ・昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館（学校図書室）や地域の図書館に、月に数回行っている。

読書活動や図書資料活用が豊かな児童生徒

学力
向上

言語能力の育成
(読書活動の充実)
(図書資料活用の推進等)

探究的な学びの推進

ICTの利活用を土台として
(教職員、児童生徒の情報活用能力の育成)

11 学力向上に向けた新たな取組について

市川市教育委員会では、以下の取組を通し、学力向上を推進していきます。

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に向けて

①探究的な学びの推進

②言語能力の育成…読書活動の充実、図書資料活用の推進等

③学習用端末の活用推進

①探究的な学びの推進

主体的・対話的で深い学びを通じた授業改善を図り、身に付けた知識や技能を学習や生活に活用していく力を高めるために、問題解決型学習の充実を図ります。

児童生徒が自ら課題を設定し、解決に向けて情報収集・分析などを行い、周囲の人々と協働しながら進めていく探究学習を進めます。児童生徒が自己の生き方を考えていくための資質・能力を身に付けるだけでなく、自らの学びを振り返り、より物事や自分自身に関する内省的な考えを深められるようにしていきます。

②言語能力の育成…読書活動の充実、図書資料活用の推進等

感性を豊かにし、想像力を高められるよう、家庭や地域と連携して幼児期からの読書活動(様々な本、図鑑、新聞、雑誌等を読んだり、何かを調べるためにこれらを読んだりすること)を推進し、読書環境の整備を進めます。

園や学校で図書資料を活用した多様な読書活動、学習活動を通して、生涯にわたって、読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を確立していきます。

また、図書を活用した学習活動の充実のため、学校図書館相互や公共図書館とのネットワークを発展させるとともに、デジタル社会に対応した図書館資料の整備を進めます。

③学習用端末の活用推進

学習におけるICT活用の日常化を進めるとともに、学習の基盤となる資質・能力である情報活用能力を教科横断的な視点で育みます。また、情報モラル教育を推進し、情報技術を適切かつ効果的に活用する力、情報社会に主体的に参画しようとする態度を育みます。

情報教育や教科等の指導におけるICT活用などをさらに進め、学びの質の向上を図るとともに、そのための教職員のICT活用指導力の向上を図ります。また、多様な子どもたちが個性に合った学び方ができるよう、ICT 機器を活用できる環境を整えます。